

յու գրակարարարարարությալը. _բուդարարարարարարարարարարարարություրությունը 1 12 գ

去田為罗的作人首奉新上忠信法不 祖気言る家情 デ天保沈 话意館 以上艺艺 其子写能高下后法不下家格室的位传 十五年我位第名了医家三子若在 ノ主人名ラ宗性ト 生日田 盛方陛下于有名一唐文 小手方去、家康 皇性(宣四法年) 艺艺家 官性代心落木 表思好

看鄉 統は集 定電路 B 47962

丁するとス うな

1

さきゃりのたろほうしなうりつき 我にくのとのもちいしゃうすままる でゆむのすこうですえどうるぞく ショナレンとなるちゃのなーかり 人といいますりないろう とやつるけんうしくろらずませ はようつかりてわられるやうろ とううかできるといなうろうろ わさって見るろうしょうてらい り物もされたひしてもなるそのと のなたら梅ろそうしくさんだとこ かっかられつるといきちりとうと たってむとてれれからなるらし さくろうちろをさしてる わつしいいてやたちさるるる ばいくやとしろくなこりをら はうしつをこれむとやかろらん ゆるまにからぬまげざをがたき われうけんかんそれなり うとれてろろうのかちょちり

をたの子くむとりよるのはいまるい なろくのゆめのうなるとすくめて れるわらこて胸奏の変しくうれて う強小あるをいろとかるちりけって をえみというしまりのこれでうきる あつとをですひとそろからの いば图ちりからるともあれて ゆせろうりといくうからし らくろうともろ 上まりしうなろしっていきな そうずことのえんろうしてく かけかけいろうそろうなうゆく いてくちやなけえないのとや うせてほうする風するしまこ すくちかるちからかっていて 一でなるしろ者のさかると いもろいやさればちょう にいんるびなろうしまりて しいれるととうか くしてるかろきは おいっちこと

月やクーや春でむってのなけてて 多物のいやとやう―ろちまりたる からきろだけてのよかりとれやきく あまなして てりならいりつ ぶ月ろちやのみるまととうまてくる 春のましてるからやのからちょ してまとついるつくとくし みるかいといるのというてか ちゃくれわっとうろかのたけると そのとかる と えるかとばれ たがなつちょうもなをころり 人てきょうくくもらすのらいのか ているりこなるうのかとうる かつかかかんきろうかしない ろうしていわばのなーの一をなり してきましましらいるとうをす れるでもゆうつあるとあましょう 四月六日 らりちゅううさん」

さんとうころきしくろるけしお れられるとなっとなきの名けく くうこうくりさかかゆかんなそう 多んをいまるかってみろとろもは なのいももいかるむとろろいの子か うなしてつちろといけつかりらい いばんのすねろりかとけていぬ場 をけるもうしはけるかさかいうか いむかかころのかなりもりのれか る国の一物とひとくのおろうか をかいよしゃとり くりりり まれてもろして うれくわられるの 二月十五年間できています くろもげちっまでころして そてはむらにわくれ七日か 番うしると りしつまであるるのたり 上下せちのうれ

タうかろしいのほうしょうちろう 月1月ーそれゆくうろかとくるま にまりれていてきるろうるでん いうかれるとのぞうろってういて たう私のうひものなるろにやくます 利機大機的産 なのりしてとてのはしかよまし まてのろうもれにうちょけ ふやうなに似てこうもいだり つのたけをときつつしょうされて 地ありりしろのいいなくしくや うよしてほうろうとうもえれら わらとしろるとともしたろう 物をむしいといるえくてくす 山はくますかがすかくを スてりるくうるなではあずこと るけらるといくさくてちしく はないやくからっきまるよへて いなみかろうう変なへまいける 多邻

かんそのようなもだやろうくとうか たの色をうつでするりかしかほう りのみのしかかのにこくねとさして ゆったんしなまりのいろうけやときも るほけのかなくしまいのむれっ 婚ゆてろくとくそもでするいかろう よううのることをみなけいきっへて 多つ日はゆきくいせてうまつも りを行びの下るかったろうとうろ なんいもそそくまろとしつおけ かろうろうなるというとうすす こまうらあずるからそのとらへ むっくり人」ねっちくもうし そくきかっしてたうしちいちら かうけましまりて くるうたん たりなくろうくつれるけき もそうとをあれぬちつうちょれて うなくはかとうさるろいけ わすらりさまくえらさん

月は一もうれてれるののこという とうしなりたろうからろいて くちょくそねかろりかる一村る ひいろもりさくへもわつえるとしか らくうるとすんちろとは、 か月まては小とすかくやかとくきす さりかゆもなとやうたきの子ととい かく出きむうそでぬきてらるろう のでだもさつまろしろろこらううの ゆうかろむるかくへのたむけかか ナレうあうろうろうろうぬうぬ ひろうしたもれらきろゆかくら そもろりりるとけったつうやる りくそのまといくなやさしむら うゆくうないるからとそから 公月一日子山りまけ うろのだまるとう

られてなるまちつのてからくらん 題さむさかそのせまやの物に いつうでもますいのはもつってたり あずしとといううなろうできる 七夕をすとまっきてやいそからな こはおなは見うちなひもつりりう はろくうとめりしのうちもりをうろ ないまからまるまで月をよくらたり をきりゃめからんろいかとそのう うかくのあすのゆふれい ううやいしてろやくはりるあり そうのいとはしむとかさやまる ありのとくしまたくらまろうせ そうけっからきけれそうつる をものうろもとなるろうくろう ひまるろろうむしまれてえる なりさろちりょうかうろうゆう いいない みりをきはうし ちくろをはるて足しめよのか分 しているなるまといろうのて

きてかられとくろともからてや ちょうかろしせとしまとしてうけて とは月の水ようつろぶりをえてて 大しうれ回もなうきなのひしつか たいきょとひかもうまのりかちっい せりもしもさやりんすしでかり ひさうを外極力くさられこひりこせ こと十マスナほとむししなるで ちくやを人ろうなかのゆふるい しことといてすちまうとうもん りをきけくましたあれやきさし 回る出力だゆくつ気けるとし うにくくとろいうたり にしくもそれまくりろ耳ひろり さーからびにこわきらでうぬく いなりするこのるとうれど後かれ しめらいるもの水ろりりきして やうきなりいれるころかき 月の程果うらかとこくろうむて

あ近いりののこくこれもいえて ならそうて砂れをけるはあるゆをす からようくがれきしいのかもいし いとしなうとなべうちのわきるらん とけいろさいとうとうかのもます なも本を社会からろのほろしうか 月日のそろろうれるねころう **利機大機的集** きろのとりこう~しろ~やもからい いっすつのさるもやちのうとゆくる むの終り限やいてそでむをおりか のよーそれられまうかけまううやぎ かってきるとうとうていれてのり むないのとはもうちろととり でくろうりょうさいまかってい 一すことんろうしてたた すくとやなり すく るとるとん くてろめるれらのは

するきかれているかずんもうろれり うちらひしるかれるかりしろれてり 図らひ~妈面からちませいくうか にりいてやゆかれころうの窓のすつ そういかるりつくへくての名かても さるのするのひとととやすつゆくで そくけいるうやほうアハされらく りつかなもまできょいっこううか そうともからいわくるうゆきける いつもをうるすりいるの話のうえ 名をかりたらいろうれてきりょして する極りとまれてうこうされまて とうやうろうそろかやもからけ ろうある さくするとれをなりのこと なら ざひさにするもうとやるひらん そてもちろきものかるらいます **ふぞらくしみゆるとや人のうて** 直し スなのれちなとしろして はク風をつくつけくえどいくで

る者の水るしたれるを見らくて るろうのひゃくとめてやちされられ らや八ろされかをくてのほと~祭す そいべううるうしきてもやのもこす えつもらくれもうちっているべて ちやなのやれるがやかりきの様子か おりされまつとで気あとりせるでも さいむりよろなのそうもりろとれて 地数へもおちれあのそろゆかるろい 打撲大義的華 とあれたんかゆうひりちいれこうか にんちんしいいてけらから でんでうわりそろせとの意しな ないてくてってんとういとうそれ 名りつせのとるとまりすから とからろうてうくるってい たするいまくかまするのるん 京孩十三四点! 多郊 一人了ろそらよらはい色

なけるところいれするこれったち ないさやしなみろとれるらうう うってきいううるでおもれきつか をういかさ人もあるろうのほくで きくやりるいりひくろうきる まのノーイーないる名のくちゃいて といわらとなんれのまてろねるいし きゃちくこうりいのへくる いちかり人とりくろうれかくて たうのとうすのこいをすれるろ うへそもくやのえるパワッサ むとうなるもやついろうべらん かかろういろうるりかられ れらでもなるあろうとうちて なしくらうなとろうだりき つぞくそほともなりもれかいう こひをゆるおれきょういまわき うちゃりくてってもまつをろ いやういきしかるをもくうも

利様大機の集 ははとしぬくるのすれのなりきまと あるいとすあるたとうないつつろと 冬かれてたとかをかくもうのたきて おりつとんきよせん了うなとかれ ふもりまてうしかようのれるのか するしまるうちとの以来が何里 あくもきとくと見ゆるなず水 むらーしていろの名月はこひろから であけーえんうでへむりをけ でこくもうをのかってうろう しるりす年うえるしてんわく ひあとあるとしてかりらから いろちとしてもとし かんいる人のろうかるが行る ふさうでするあのがしまり わかをのろけるかやをりちゃら 本語のたうしとかとうろううちん めうとかろ やらろとすつらん ーいてくり包

ひとうことをうをにくるかっちこ ろううないないないなりちなくらうと きのなりとするこかとはしれつるる はうしろきてしていたったころかく 七けかろさいろかりとしてんまして からいろいせなかのさやしれるろく ちさのぞくとしいるるうそうで さくちうりょうはろきしろとれ んうやしの文はであうなりやまて うきやすつせの大ゆかるるる 代ろとのくととはすりょううって たやのゆつりろうれてきひくう かくなびためてきいもうちょう ぬをこのわくこうくうちょうん うけっちょからちゃううすーえ けっろうりらうそうゆるった というしょう はあいりがさい --ちまえりまれて光さな

神いとなりかとそれをんとなりらて うでとりからりのあってかをて いろうちくろうもとてかり、そ やすからさるくろしとなられ らくりいの名のしきゆるこうたて うしたっとこのちろやとは らやわんからくろするそうの神 ?うやいしてのもしのなりもろ こうのはくてのものろうらさを 松ろあるなりとつりいっにをきりる うそへくとうとうなからき目 ひんいりんとしゃれをよらん おはんそうつろうこましかあれ 水のうますと悪いやうつり 「とおもなんく」をいとううる むくとつえたくいるもろうそし そうなるこんうやくうせの好きて 一鍋すりらいたろえくひじかって をとうるいまゆかくおるろう わうきできみんもつうよかられん してのと

多んけいういかりもくちや思さ ゆく られめへいてうとけくずいろれて そう――をとうろころくるそらの象 らいろうのわるたる気扱小をもの がるもころいもを地やしれぬらん かろくっとりっとりさやのなり極し いとろうにをぬつかりりるあいころ 多人やりうかのりてるいらん なのその肉ながちやる一瞬りのて けっとしつうえゆるりしつか なくしなとはやううとゆくらん らかかくともいわつまりつする とんそうるというとくするのは びさーをさーてとんてこうのを というといいをむらいりうき かくとういくちゃへくうしき すう くしをもつうしうりょう りっくときれくあくしいるかりて かんもうもちんとこたくし 人のすりるやまなれたうくつう

吹うたろれよれおりてもとかもな た、いまこうかられてとろく ですべいなとてもすりのりくるる りるヤンてゆはをすとしてろ茶 いーなーかといのさくを答う 見っやういろとなるしゅらん くてもえかといっての版と切ら さくろうりしるかあつしつや くすつくろるかりかりまり うそれられらからしかりゃり かんずる まくみようをとかく んにそのあときたろこまのた うつけやといううとうき者かれ かかくろうもかにもうへろう ら地へむきんけららへむちんを 極なられまきぶろのいまくい のもうでいっとけるてぬれる んているるるろうくさけき のりろうちゃくろこっち んをのつるなうされん 情快

きんさんのれけってもろもって とやりまなとうちおろりのつまけて するのいちってりをなとうでして いけしょうませいしても状がして るなるもとちゃがといのかしょして にきらよりてものんうりかわる 乃うるでるとって見れてやけまり ろそうちらそまろぞとでかられ を送ってがいいるかいるん もろうなくのやうないからなっ ものうるかちゃきくりてそろう られいれなもでのまやろろくとった ソアを全体のちうちんろの くいたてゆきもあるくしろかい わるでをようろうのううる一気 六十ろもうしるるしてから らずうなかけるかけの血のから けるかくをつるそまつはつくれて かかさらいるをこびじらかし むまといるともろういもきす

きゆひのなくのあんりでかって きとたてくなるからろいちたう たうさころいろへのはくしれる さかりからりといくせるていろうと ねを人びとうへてみきもりのる方も おいろうときしきのとあしせきない わその色のさく地からてみくゆの人 すくをようからろうのたすっきょ 安うりちやをかさいうしゃともん すれんろうとちくらるかかるもろう かつろるやかのろうみと入せやので 山上ろういわきするなるまれて りてもやしとうめのもやてしう ここらくてんろひけやしゃら いうろは地差意をでだっます すつうをすくやくひろしむらん きりろうきかりまであくもかり からうろがからのうとをす ゆくもりかとをいるすいきす 其

つうをに気持しなめりとうまれ きとりううつかっからとは気にかく 大いとのとかのわられーさーうへて 接てみるともからもれれるというで きらねろとうくもとれるなさそのを やきこりしを含まいくまなうちろし るめも皆をのむともらくわいて けりはるれるるかんやしろけらって かのあらろりいれるうちと けられくろりゃちさろすりころり をかうくりとゆかりますん やくしいまくてらくとうるい いかのからでうめからぞうり むくはとふみくりしてくくちり さくろほうくもとかけてるらん りんととも自生てまてつりわきて きてる教をなるんとさいったり しくうるを強くろこしたき りついいらろりゃかまつつち しれがしまれとうとのなった」

まかなれるみまふれれるといこうと いの風力がにもくてすとやすりと たきいろかをやりはくをあけている うんかつめをとくしろみが全まえて みりろしのりからやられる成れると りくあるひからはまろつほく りてくこうているよう うつるいせたら城へかりまる しまれてんをろってとわつらへて りやまてのちもことかくてくち後 まるすべうとしかりきすまちゃ これをかなくてしとうなり わいりちからとむとしまるん すっんをいえんすくとるぬ薬神堂 もみらやおやらうとないありくさ りきんたうなといろう わってらいれやろうころかい りつくいくしとのわくださ いかくき再国へ向か行るして うなだのきろうすりるらん ***

的気み 核人がやむはのくに路 けってりてちへねしからでしちさる あっしかとうともしてきねまるね 年のよのほうけられずてかやるがそ たやもとくますりくるこれする いねろやうからぼうしまいれる これすとなるーハーても行うでん ねーろから一の坊のひのりを くちょくぬるこれってわをまれて たきとまっくりくからさりょう 人なとそりてむとろうくそれく さかでろうなもゆくもゆうれも だからしい色とるちそうしたら すろさきるいこつちをちてうひて **ゆうをなぬがなーをんすいろうて** すれもわれたりけまもほうたう すりでうの目りとほやまからりん さる見とかるうらなってまるよう ちのうん強うろうがむいき役と りをそくもものとなまでん

ただやよしのまくろくろに独 むなのうちのの後がましてい あのるろううないかな後むとうったて す に す い か し し す す か で し 人 か く て 今ろうのに被あむりしゃだとこして れのいろもうつでしょりい物はう くっまのているもろえずりこさ いやくとにねるとやうろうとずめて くやしろうなったんきょうとか そわりとうわらうてわの生ぬられ ううやな十班名さい なりもくひとりをなるんとつき 称りりひの風へもほとやすり しうけをおうそうろのかずそい くる状を生てやつりをよろうん そうないのうのけょうあけき うかさたゆいうテいをすひろん やことのやすをおっむあずのお 小町をあずりかってってらる し捕りとともくれてからはする

むいいいからてうかさうるさ そいたはわくすうできるいのか 回子の何るもとかきもろってるちて りの色やみとなっとめのちらいたい 人もろればうりしるなまですのそ うしかさしきをまつることんしして からろひやないとうしろうれる からんやらとういわらんするで それわかいあれいちょるカチろうて すりがかられのめを人るれをまだて いうまのきや日もなきたとの あ近のとんぜいしくうかかってみよ さうーてううなりてよるり にすらはうさていつといれるや のとろううれをしてよっろつか くりまとったってあるるであるり いのんかろもうだしろうち ころそのうしょちょとうきゃ そろも向いとはあろろくちり かきののかのかったるないとい

されへいうなでちばれいすのは まらでなりちでしときかを指子する すつの風小神のいまなかろうなし き者とのさかろうろんをだよほかる 録かしかとうゆくとののちきかしけ はときくすくはろみくのひそくうる もちや量のはのでもましたはゆ ついくちのいちのとらすりともして しんつうういすりつれあさいち 大日やそうしょかってけいのう くろりと焼みりからのかろう 地がとくとてうてんへのかきい たうとくもわりとうとくまな そろろまりりとかにまたときん するちょうろうしきく なんやりし際っまてやるからん らうさんろろ後ゃのくころてら をかけてやとろは強極のビイ ふつう息ひにもりそもりろらい

あってらるとうとないますして つれろからうとたけからろをと い水りまするきろわらそれ するいろうにりっちくとれるん をとうむくたそろいかりふなりらて をくいしそといろとれとするんろ といるといけるれとしてもりれる せのゆをはくかってうかいけら いからしゃしうしをうかろるうろうて ものなし やうながむふぬらん そうろうをするれるなりへろう さいとやりとのうてやるさびとく ゆくるとしていわりましのすと やきろれしくけるするかく かくけのするのこというやちゃう さいともちのはいってもな まんやくしいくちず うつ いいまのなくろたかっきよのる そでんの信うしてもちから

るなりひのもろうかからをかすしてるなのとろう ちんとかくそうそろう人文はとる らやの場のおけのうけらまろうと 口わきのはなひらすとろのそて りんをうろうからのかうかのると たてヤダマヤーを含複うなないの するでたろうるとろろさやらつ で国るゆうやきるとはまつよう 多のロヤスまろうしるだとらん くてけてすのまるかるもろほとの きやうしやもろとりちゃいてたり 行くなのまへてせずりょううく いかろたうとあれかっからける けしりをうろうさんとそれ なるろう格とうをいっするの意 るろんへの呼らる変まかずろきた すると地数のあるも残かれや うかもりとなかっさらのう 小島のいのきとおうれるとろれて

れこでとをかりくねいるのギャーろとかり人のへいちょうしくり すを見べるりの菓うくすこうを見て 食信のでもしもちょうまっろうの をすてぬりのるもまるまといりりて そろうかとうのの十年以れれる しからやさいのかしろけのとう ないろうなこうしょしてや飲むると をたのうろれるとろいるない たつわやもまちゃらかのりしよる さいしきょうと人もしてわら うつういろそろうてありい るしまく猫のみくとそうでか もまかるかつきの様はおりむまて くれまうるしろがける勝りをて 中国からはししょうくろう 15へもわられきしかくから いりょうまかりいりょくもなし 山かりろうかしるやるうかん 自なりをけくくちのひろさら

痛をすってこれとうしてたくれつか なんとうやたかんまんゆうな気食て をえてかれくろえんのうとう ないろのとらるくとしひなたらに こときったかりろちやうもうのとの うつろまおれのありくの岩としや うっとするはいいとかいそこなって るさやうきするんののそとけ かくるのいられりうくるのらひす まくもかられれあるのけしょう にまうかうしかられとるるもろて せものまころうやのうちくと 十高しむくらしからへし 十くうろりしきゆくきたりゃり ゆやうのちんやそひえるとらん えてんるやそりをなのきなりから するもをうけてむかもうされる かきかれんねつるなくとくましを うときなるくるいつちゆくると となまてもくとはようまれ多ろ者 以上

行」せたる六百貫をであられて 老やきてかれってるうからるけき させりのようをすいやいころられ 松楽ならはしとなきるなり 好もきすぞもりもやられてしたて ものういもはかろううろうらるいき りつ食まりがぬもうれのからするう つかしをするすべてんりやまやり 動をひしてきんそうそをん うつのきるいのからのゼーさ りしろとりぬのまんまくるわり ううさもむとれいろうかできり かいやらし、こはらっていちて ーやくろれとむう彼とろうふかく 今れろれーいろとうころとのうも いきんをうにもりがそうつりも なあってかられるろうしさく はなるめなくつつきてし ないるりをうしているうちち もつりもはしむりしてうきしない

うすうとしてといいまとうろうと のまうれてとよう祭りかのととる 足のなまてからまの人のあずやとり 的すななころのさっちっくへて 大さくとかている紹子はいまれて さけつめりとうとううまとむり焼て さいろうちくろうしろうびょりて かくきといんてちゃろうてきか そうでのとないのようなかかん さいわってきるためをしくちくら こうなをかぞういろうれるのど あくまるとういちかあろをは をうろわくれてつずはけりちり 人ろうもわって人そうろのい とんろうろうなするやそしん もれたころもまらそうちやけん らすりさいさょうちないれぞう はしきにふうしもしろにへられ 一ちならしそはつしろうち くろをみてけるしるゆうく

ほうきをきけいなくいろとまくしへ ひこいりのタをすわいるのとので 移塞ろなのうしまけのニョをひ グかけるがするのとかれるとうとう てろうののともくをかるますと ナセハをおにろうろうかい 奏うられたとかう えらとかって わきるつろからゆるこかかろきて わかなくもちがめてたくまらり をしいろろいいもあれるしくとう みつろうこうとあせもわりける のいもおられましいもうくれす くまけるまりりの持てるの 水のかってきる者もわりとうと かろうこからいっきてれるの かとのなけるてとまやをううすれ くえくくうろで気申るほろみくて けったいいくてきるもして りるこのちたりものうとしける 一ろなるろうしくすの彩えくて

宣命もうちょうろう人でりぬし 大师太子をいかしりかりる きりをからるろうくつがゆそよ はいされるとりなえぞしまつきょく あのえこのまへとであかくいよって は城の神とさやくせんたんと写物しかとけるそのとないたまようか うちるよりくってもりるりか そうとうとへきもてとうす うてもうつくしてくちうちかっと るちととまるうろうろころい そとそかいしてそうきょうすき 見ったろけあかれてものいる こうのはくりとうひやうやくそう れるういるともれどううまけ ゆとかけらうかっきってりき んとうろうとまろうしらひえめる --うしのみずうなからで一里ます ~なうろーとをとるからなり、 しろからしまてをそうしろかん しと見

うりとそとと人もからろわんのちと るかりょいそのそうもやたこすかん 気はずしたうりうさけのきつるとそ とういうからいてのちむやら ときももうれの水でうちずる丁 報をえばらくくみきしたうゆると もよめずれたからからなるうして きやちやたるけうこいかろら とやりしのさいますりあれちを 一もないとうろろろういしょさし うううてんうちくるともいら まりのあからりろいったつかっと いるまれをもったこかいもきり ははから人も借うろってかるて ていのわなきるらをうろうん ふそううみろいえてるくきか 人のまとてもいつれずらとたら らなしぬてもまるり~こまろ りるまいきものきるとってくり

指子しとかとなるのまのそいは さいろらのひまいいきとうなるかる そいののよろのはしのくてんたん らのよう人ろりとううとれている たのそうちないるを望るをあれら ぬなりととしていれるのひちてろ いうつうしたういろれるからゆまて つやからそけるとりしゃくすれ いるさる子くろ かりってける りのままあーろうろろうちん 為ながるたりつのしくもころり 八四ききろものはもうてゆくて でんくなんをあんしょうけん にすらこよりうちりまははいる むことりまかして必とでもなし むくくてからしまれるのきょう かとうとりてくのとうちゅう でしゃちゃんから まる らすがなかるのがのかっこけ

福 なとうこ 色新力 するろかつ 15

